

平成29年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	信州上田老舗企業に学ぶ魅力活用事業
事業主体 (連絡先)	上田商工会議所 (0268-22-4500)
事業区分	(6) エ 商業の振興
事業タイプ	ソフト事業
総事業費	1,689,402 円 (うち支援金: 1,267,000 円)

事業内容

○上田には長きにわたり事業を継続してきた企業が数多く存在する。市場環境の変化、事業承継など様々な困難を乗り越え、変化に対応しながら経営を存続させてきたものと思われる。今回、上田地域の創業 80 年以上継続している企業の経営手法の実態を調査・分析する。
 長野大学と連携し、調査・分析し、結果報告書を作成。その結果を活用し、地域の経営者、起業家、学生を対象とする報告・勉強会を開催し、「事業承継問題」「変化への対応策」「困難に打ち勝つ対処法」「起業家精神」など企業の神髄を学び、人々が元気になり、力強い地域づくりを目指す。



【18.01.19開催 報告会・勉強会】

【目標・ねらい】

- ①老舗企業の実態の把握
- ②大学と連携した調査分析事業により若者が老舗地元企業を知る機会を提供し、興味を持ってもらう。
- ③報告会・勉強会を開催し、多くの方に老舗企業の事業承継問題の克服等長期経営の秘訣に関する情報を提供し、各々の今後の参考にさせていただく。

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

調査・分析にあたり、学校教育機関との連携を図った。今回、長野大学企業情報学部の禹在勇教授に調査・分析を依頼。当事業の調査・分析に携わっていただくことにより優れた事業展開が可能となった。更に、この事業に多くの学生が参加し、多くの若者が上田の老舗企業の魅力を知り、興味を持つきっかけができた。更にヒアリング調査でも、学生と地域の老舗企業が直接触れ合う機会を提供した。また、当所独自で持つ企業情報では得られない独自の視点での分析が実施され、老舗企業の皆様においては事業の再確認、また、事業者や新規開業予定者、また一般の皆様には企業が長く経営を続けることができる秘訣等、多くの参考にすべきことがあった。現在日本全体の問題である「事業承継」について具体的に勉強することができた。

※自己評価 【A】

【理由】

調査、分析活動を通じて若者の参加を得られた。また、今回の事業について報告会、勉強会や報告書を多くの方に活用していただくきっかけづくりができた。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

日本全体の問題として、「事業承継問題」がある。人口減少社会の中で、企業がいかに生き残りを図るか、また、若い力をどのように社会に活かし行くかを得る手がかりを得た。今後、この事業結果をさらに多くの方々に紹介する機会を持ち、引き続き勉強会等を実施して参りたい。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

平成 29年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	別所線と走ろう、歩こう ラン&ウォーク
事業主体 (連絡先)	別所線と走ろう実行委員会 上田市本郷 109-1 0268-38-3802
事業区分	特色のある観光地づくり
事業タイプ	ソフト
総事業費	¥2,810,919 円 (うち支援金: ¥935,000 円)

事業内容

- ・別所線の記念日 5月25日にあわせ(直前の土曜日)別所線に沿って行うランニング・ウォーキングイベント開催(スタート:上田城址公園、ゴール:別所温泉)エイドステーション、ゴールでは地域の団体、有志による音楽演奏などを行った。今回で9回目の開催。
開催日 5月20日(土)2017
- ・イベント開催にあわせた連動したランニングツアーの開催(観光、旅館組合と協働)開催日 5月21日(日)2017
- ・ファインド信州上田プロジェクト
イベント開催を契機に国内外へPRし、来訪者を増やす活動を行った。案内パンフレットの配布とホームページでのPRの実施。



別所線沿線の風景を楽しみながら走る参加者

【目標・ねらい】

- ① 別所線のPRと存続支援
- ② 健康観光イベント開催による地域の活性化。
- ③ 地域との協働による地域振興。

事業効果

- ・年々参加者も増え、今回は500名が参加。参加者は、約60%弱の方々が首都圏をはじめ他地域からである。リピーターの方も多。
- ・健康・観光ツーリズム活動として着実に実績があがってきた。地域と協働、協力して実施できるようになった。

※自己評価【 B 】

【理由】 イベント内容の刷新や活動資金の安定化など継続発展するために解決すべき課題がある。

今後の取り組み

- ・第10回を迎え、地域と運動し、健康スポーツツーリズム活動としてさらに充実させていく。
- ・首都圏の他、インバウンド観光を目指し、海外へも情報発信していく。
- ・一過性のイベントではなく、ツアーのコンテンツなどに提案するなど、滞在型イベントとして発展させていく。



平成29年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	東信州広域連携による次世代産業創出事業
事業主体 (連絡先)	東信州次世代産業振興協議会 (0268-23-5396)
事業区分	(6)その他の地域の特色及び個性を活かした産業振興並びに雇用拡大に資する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	2,800,110円 (うち支援金: 2,240,000円)

事業内容

『次世代産業を生み出す分野別研究会(開発プロジェクト)の立ち上げ』を行うことを最終目的とした基盤づくりを進めるための事業として、次の事業を実施した。

- (1) 大学教授と中核候補企業による分野別勉強会
- (2) 産業分野別の技術の高度化及びグローバル人材育成及び企業の将来を担う人材確保事業
- (3) 地域を牽引する中核企業支援・人材確保事業
- (4) 地域内ネットワーク構築・産学官マッチング事業



【第10回ものづくりパートナーフォーラム】

【目標・ねらい】

- ①産学官連携による地域内での次世代産業創出
- ②地域内企業の競争力向上に向けた取組を推進

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

①分野別講演会やものづくりパートナーフォーラム等を通じて、次世代成長産業の創出に向けた研究会や具体的な開発プロジェクトを進めていく上で必要な製品開発型企業のコア技術及び共通課題等について習得することができた。また、企業同士のマッチングによる産産連携を促進することができた。

②UIJ促進に向けた首都圏等における就職説明会、企業ニーズの高い品質管理、法務対策等の人材育成セミナー及び中核企業経営層のネットワーク化を図り、分野別研究会へ繋げる東信州産業集積分布図の発信を実施することで、企業経営力向上や人材確保育成促進に向けた取組を推進することができた。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

地域企業の活性化による税収増、雇用拡大はもとより、ヒアリング結果に基づく企業課題の解決や平成30年度から平成34年度までを期間とする東信州次世代イノベーションプランの具現化に向けて、エリア内企業同士のマッチング促進を図り、次世代産業創出に向けた開発プロジェクトを立ち上げ、具体的な事案に対する事業化検証、試作開発、実証実験等を段階的に進め、東信州地域の次世代産業の創出・振興を図る取組を目指す。

※自己評価【B】

【理由】

事業計画で予定していた各種事業がほぼ計画的に実施でき、次世代産業創出に向けた産産連携や企業力強化等を促進することができた。

※自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

平成29年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	鹿教湯発バディケアの普及とバディケアスタッフの養成事業
事業主体 (連絡先)	一般社団法人日本バディケア協会 電話 0268-75-7692 FAX 0268-75-7694
事業区分	6) 産業振興、雇用拡大に関する事業 ア特色のある観光地づくり
事業タイプ	ソフト
総事業費	1,334,232 円 (うち支援金: 1,067,000 円)

事業内容

バディケア (Buddy Care) の概念の普及と啓発活動を行った。ロゴマークを作成しポスター50枚、チラシ5000枚、外出・旅行のてびき書500冊を作成しバディケアという概念の普及を図った。テキストは希望者に応じて無償配布した。温泉地で安心して旅行弱者が長期滞在できる環境を整えるよう努めた。モデル事業として「鹿教湯温泉100年ブランド創造プロジェクト」の関係者を対象に、テキストを元に医師・看護師などの有資格者による旅行中の健康管理に関する講座やヘルスツーリズムに関する無料講座を実施し、鹿教湯温泉を中心にバディケアの普及啓発を図った。



【車椅子操作の授業】

【目標・ねらい】

- ① 鹿教湯の宿の方対象の講座
- ② 障がい者の方の湯治支援
- ③ 鹿教湯で講座開催
- ④ 外出・旅行の手引書作成配布

事業効果

- ① バディケア3級取得者11名：内訳 ホテル、旅館3軒、ばんびーゆ、観光協会
体のしくみ、旅行中の健康管理、車椅子操作、介護施設での実習、食事形態について学ぶ
- ② 鹿教湯温泉の常連の方の湯治支援、クアハウスでのプールや、バーデンゾーンの活用支援を行った。
- ③ 鹿教湯交流センターで講座開催する。
鹿教湯以外の方々18人がバディケアの知識技術を学びに来た。：飯田、千曲、佐久、東京、関西
- ④ 医師、看護師、長野大学教員：観光科・福祉科、花王(株)の寄稿より作成し、観光・介護・一般市民へ

※自己評価【 B 】

【理由】

鹿教湯温泉の湯治場へ他県、市外より受講生が訪れた。またロコミでバディケアのいる宿だからと連泊された。しかし、鹿教湯以外の上田市在住の受講生が非常に少なかった。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

上田市での波及が少なかったことを振り返り、今後の協会の取り組みは、上田市民へPRするホームページで鹿教湯での取り組みの活動を発信する。ヘルスツーリズム、ユニバーサルツーリズムの活動参加を大学生や市民団体へ身近な在宅介護での外出、旅行での簡単な健康教室を協会で行うことで上げていく。バディケア卒業生が介護施設の訪問や塩田平八十八カ所巡りの時、バディケアの知識と技術で貢献する機会を協会がインフラ整備する。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた

「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

平成29年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	「信州爆水RUNin 依田川」マスコットキャラクターの着ぐるみ製作
事業主体 (連絡先)	信州爆水RUNin 依田川実行委員会 上田市御嶽堂1-1
事業区分	(3) 教育、文化の振興に関する事業
事業タイプ	ハード
総事業費	750,600円 (うち支援金: 500,000円)

事業内容

丸子地域の夏の風物詩「信州爆水RUNin 依田川」の大会のマスコットキャラクターである「ガッツRUN吉」の着ぐるみを、親しみや楽しさを印象付けながら更に大会をPRすることにより、全国から訪れる参加者の増加や観光の振興につなげることを目的として新たに製作した。

さらに活用を広げ、地元イベント等への参加も行った。

- ・第22回信州爆水RUNin 依田川 8月6日
- ・げんきまるこ産業フェスタ 10月7日
- ・鹿教湯温泉ウォーキングフェスタ 11月4日
- ・あいさつ運動(青少年健全育成事業)
西内小学校 11月20日

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ① 全国からの参加者に対し、マスコットキャラクターの誕生は、より一層の大会演出やPR効果が生まれ、注目度を高め印象付けることができた。
- ② 地域で開催されているイベントに参加し、参加者とふれあうことにより、盛り上げに効果を得られた。また、小学生児童との街頭活動においても注目を集め、効果が図れた。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

今後も地域の元気を盛り上げていくために、大会のほか、地域の様々な事業と連携をして着ぐるみを有効に活用していきたい。



【大会の様子】

【目標・ねらい】

- ① 大会のPR・盛り上げ
- ② 地域活性化につながる地元イベント等への活用

※自己評価【B】

【理由】

大会のPR効果に加え、地域を元気にするためのイベント等でも活用し、盛り上げ等の効果が得られた。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

平成 29年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	チャレンジスポーツ塾 in 真田
事業主体 (連絡先)	NPO 法人さなだスポーツクラブ 0268-72-2657
事業区分	教育、文化、スポーツ振興に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	1,021,111 円 (うち支援金 : 702,000 円)

事業内容

バレーボール、バスケットボール、水泳、卓球、硬式テニスの5種目のトップアスリートを塾長(講師)に招聘して、小学生から一般までのスポーツ塾、大人対象のウォーキング塾、障がい者対象の障がい者スポーツ塾を開催した。

スポーツ塾では午前2時間、午後2時間トップアスリートの指導を初心者から経験者までが一緒に楽しんだ。

大人を対象としたウォーキング塾では体組成測定や2種類のウォーキングを選択してもらい専門家がウォーキングの指導にあたった。

障がい者スポーツ塾では「ボッチャ」を行い、障害者と健常者が共に汗を流した。

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ・参加者の目線に立った指導プログラムを提供いただいたので、初心者から経験者、指導者まで、全員が一緒にスポーツを楽しむ事ができ、体力向上に繋がった。
- ・近年、減少傾向にある、スポーツ種目の競技人口普及活動に繋がった。
- ・初めて障がい者対象の事業を行い、地域で障がい者の理解を深める時間が持てた。
- ・改めて自分のカラダを知り、運動の大切さ、規則正しい生活習慣の大切さを理解してもらう事により、日常的に運動を取り入れる習慣ができた。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

今年3年目、最終年度の事業となったが、参加者から来年も必ず開催してほしいとの声が多く寄せられたので、この声を大切に、スタッフで知恵を絞り来年は自主事業で開催できるよう考えていきたい。



【 水泳 : 内田塾長の指導】

【目標・ねらい】

- ①スポーツや運動で身体を動かし汗をかく楽しさを体感してもらいたい。
- ②トップアスリート技術・指導を生で体感してもらいたい。
- ③生活習慣の見直し
- ④障がい者への理解

※自己評価 【 A 】

【理由】

- ・スポーツを楽しんでもらえ普及に繋がったから。
- ・大きな事業をみんなで協力できたから。
- ・スポーツの素晴らしさを伝えられたから。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

平成29年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	菅平高原・国際スポーツ交流推進事業
事業主体 (連絡先)	菅平スカイライントレイルランレース実行委員会 代表者名：実行委員長 大島淳 事務局担当：野々山 晴之 電話 090-7274-8777
事業区分	⑧その他地域の特色、個性を活かした産業振興、雇用拡大に資する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	1,987,182 円 (うち支援金：1,589,000 円)

事業内容

本事業は、菅平地域では初の取り組みとなります。豊かな自然と広大な山岳エリアを活用した様々なアウトドアプログラムは、多くの方に関心を持っていただけるものと推察します。比較的短期の取り組みではありますが、外国人旅行者と在日の外国人にアピールできる内容です。また、期間中は台湾で開催の「国際旅行博」での PR 出展や、スイスをはじめとする大使館関係者にも情報提供を行い、今後につながる良い機会としたいと思います。単年度にとどまらず、今後も海外に向けての発信を積極的に行って行く予定です。



【トレイルツアーの様子】

※2 自己評価 (事業効果) 【B】

事業効果

【目標・ねらい】

- 菅平の高原、山岳エリアの魅力を海外の方々にアピール
- 菅平の野外スポーツの体験と利用促進
- 海外とのスポーツ文化交流
- 地域の方々の健康づくり、スポーツ交流の場としての促進

本事業の実施にあたり、5月から2月までの10ヶ月間で総勢150名(家族含む)が様々なプログラムに参加されました。内訳としては、外国人のお客様が約20名、上田市をはじめとする地域の方々が約100名、その他県外からも30名の方が来場されました。また、同関連イベントとして開催された第10回菅平スカイライントレイルランレース(6月10・11日開催)には、国内外から920名の方が参加されました。①6月10・11日の本イベント関連への参加者総数は1,200名となりました(10周年のトレイルイベントを含む)。うち、海外からの参加者は30名程となりました。

※1 自己評価 (事業実施率) 【B】

今後の取り組み

今回の事業は単年度での取り組みとなりましたが、実施したことで体制作りや受け皿作りなど、新たな課題も見えてきました。菅平は今後、これまでのスポーツ合宿やスキー利用などの団体利用にとどまらず、海外の方達の集客も視野に入れて新たなプログラムや受け入れ態勢を整えていく必要性を特に感じました。

今後は、トレイルランニングやトレッキングなどのプログラム作りにさらに力を注ぎ、海外からの集客活動に取り組んでいく所存です。

※1 自己評価 (事業実施率) 欄は、「A」90%以上、「B」70~89%、「C」50~69%、「D」49%以下で示すこと。

※2 自己評価 (事業効果) 欄は、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

平成 29年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	美ヶ原高原タイムラプス事業
事業主体 (連絡先)	美ヶ原高原タイムラプス実行委員会 (事務局：美ヶ原高原美術館内 住所：上田市武石上本入美ヶ原高原)
事業区分	(6) ア 特色ある観光地づくり
事業タイプ	ソフト
総事業費	3,452,852 円 (うち支援金：2,459,000 円)

事業内容

タイムラプスを活用し、美ヶ原の「星空」、「夜景」、「雲海」など観光資源を PR し、観光振興を図った。

- ① ワークショップ開催
 - ・星景写真ワークショップ (1泊2日) 4回開催
 - ・タイムラプスワークショップ (2泊3日) 2回開催
- ② 美ヶ原高原タイムラプスムービーコンテスト開催
- ③ 地元小学生星空観望会開催
- ④ 星景写真展「美ヶ原の宙」開催
- ⑤ 星空観望イベント「星空さんぽ」開催
- ⑥ タイムラプス案内人の育成



【ワークショップ撮影会にて】

事業効果

タイムラプス事業も3年目を迎え、ワークショップやコンテストの継続開催により多くの動画や写真が SNS にアップされ「星がきれいな場所」としての地位が確立し、多くの雑誌や TV での紹介や CM の撮影など行われた。また、初開催の「星空観望会」は悪天候となってしまったが、2日間で200名弱の参加者があり、今後期待できるイベントとなった。

特に山頂のホテルでは予約が取れないほど人気となった。

今後の取り組み

来年以降は支援金が終了となるが、カメラメーカー、工学メーカーの協力をいただきながら継続してワークショップを開催し、「タイムラプスの聖地」を軸に「星空」「雲海」、「大パノラマ」など美ヶ原の魅力を伝えていく。また、今年立ち上げた「星空観望イベント」も美ヶ原の核となる観光イベントとして盛り上げ、地域の発展を目指す。

【目標・ねらい】

- ① 「星空」を目玉とした観光振興
- ② 「タイムラプスの聖地」の確立
- ③ SNS を活用した美ヶ原高原 PR
- ④ 「星空観望イベント」立ち上げ

※自己評価【 A 】

【理由】

タイムラプスを活用することにより話題性が生まれ、美ヶ原の知名度が上昇した。TV 取材なども増え予想以上の PR 効果が表れた。「星空のきれいな場所」として人気エリアとなった。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた

「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

平成29年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	東京芸術大学と連携した、アートによる地域活性化事業 「天空の芸術祭2017」
事業主体 (連絡先)	御牧ふれあいの郷づくり協議会 (地域づくり部会 天空の芸術祭実行委員会)
事業区分	(6) ア 特色ある観光地づくり
事業タイプ	ソフト
総事業費	1,927,675 円 (うち支援金: 1,470,000 円)

事業内容

平成29年度は地域住民による地域の魅力発信事業として「天空の芸術祭2017」と題し2つのプロジェクトを実施しました。地域に設定した作品展示会場を拠点に、自転車、徒歩、車などでも周遊できるルートをつくり、周遊型の観光イベントを実施しました。

実施内容は以下の2点です

- 1 地域全域を使った、周遊・体験型展覧会「天空の芸術祭2017」－展覧会の実施
- 2 天空の芸術祭2017「SKY Tours」



【1 地域全域を使った、周遊・体験型展覧会「天空の芸術祭2017」－展覧会の実施】

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ①実施に当たり、累計500名以上の協力者が地域より集まった。また、地域住民による作品展も開催され、20名以上の参加者が公募で集まるなど、地域の活気と賑わいの創出に貢献した。
- ②③東京芸術大学の学生を主として実施された地域での展覧会では、地域の風習や景観をイメージした作品が設置され、地域住民および来場者へ興味関心を促した。また、子供たちにも参加可能なイベントを実施するなど、地域の環境、文化を知ってもらう絶好の機会となった。

総交流人口：24,279人

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

SKY Tours で使用した周遊ルートは、今後も継続して地域活動として実施する遊歩林道整備へ活用していく(地域案内看板の設置や、観光ルート作りなどの参考とする)。展覧会の実施は、継続して実施可能な形態を模索し、地域の風習や景観へ興味関心を促す取り組みとして、継続した活動として地域への誘客へつなげていく予定。

【目標・ねらい】

- ①地区に活気とにぎわいを生み出し
- ②地域にある資源を活用した活性化事業を行う
- ③将来にわたり地域の環境資源や芸術文化を伝えていく

※自己評価【A】

【理由】

多数の住民の協力の元、地域全体の活動として実施できた。予算などが限られる中での実施だったが、他の同様の事業と比べてCPも高く、想定以上の成果を挙げられた。

自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた

「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

平成29年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	田沢地域の魅力発掘・発信。外来者呼び込み実践事業
事業主体 (連絡先)	田沢おらほ村活性化委員会 村長 荻原勝夫 (0268-63-5147)
事業区分	(8) その他地域の元気を生み出す地域づくりに資する事業 (6) ア 特色ある観光地づくり
事業タイプ	ソフト
総事業費	664,172円 (うち支援金: 498,000円)

事業内容

1 「おいで祭り」参加

田沢地域の魅力を発信するため、東京都大田区にある糀谷商店街において開催される「おいで祭り」に参加し、地域の特産物の販売と地域の魅力をPRしました。

- (1) 開催日 10月1日(日)
- (2) 開催場所 東京都大田区糀谷商店街
- (3) 内容 地域の特産品の試食、販売とパンフレット等による地域PR及び情報の発信(ワイン、農産物、観光名所等)
- (4) 参加者数 24人(田沢地域からの参加者)



【「おいで祭り」参加】

2 空き家活用ワークショップ

第1部では、田沢区内を歩いて周り、参加者みんなで空き家の状況を確認しながら、将来の活用方法等の意見を交わしました。また、第2部では、アルカンヴィーニュにおいてワークショップを実施し、活動事例等を発表していただきました。

- (1) 開催日 10月28日(土)
- (2) 開催場所 田沢区内空き家及びアルカンヴィーニュ
- (3) 内容
 - ア 田沢区内を参加者全員で歩いて周り、空き家の状況の確認及び意見交換
 - イ 「村の空き家を考える」ワークショップ
 - (ア) 田沢おらほ村発表
田沢地区における空き家問題の取り組みについて
 - (イ) 事例発表
 - ① 信濃町NPO法人ざいごうの活動について
NPO法人ざいごう
 - ② インバウンド個人旅行
解体新社 hosomichi プロジェクト
 - ウ シンポジウム
- (4) 参加者数 48名



【空き家活用ワークショップ】

3 遊歩道の整備

地域内にある里山(児玉山)の遊歩道を年間を通して草刈り作業等を実施しました。

また、遊歩道を利用する方々が休憩できるような、ベンチを作製し、地元子ども達にペンキで塗装等してもらいました。

○作業内容

作業内容	作業回数	参加延べ人数
草刈り	3回	42人
植樹作業(桜、つつじ等)	1回	15人
道路拡張作業(遊歩道)	2回	8人
ベンチ制作	1回	22人(うち子ども12人)
倒木処理	1回	4人
入口ゲート整備	1回	2人



事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- 「おいで祭り」参加(田沢地域から24名参加)
多くの方が集まる中で田沢地域のPR及び情報発信ができた。
- 空き家活用ワークショップ(参加者48名)
田沢地域以外の方も多く集まり、空き家対策やこれからの活用方法等の有意義な意見交換ができた。
- 遊歩道の整備
里山(児玉山)の遊歩道の整備をし地元住民や観光で訪れた方々が散策しやすい環境を整えるだけでなく地元の小学生の協力のもとベンチを作製することにより里山に親しみを持たすことができた。

4 各施設来場者

施設名	H28	H29
ワイナリー	40,000人	40,000人
休養村とうぶ	33,000人	33,000人
ゴルフ場	25,000人	26,000人
湯楽里館	280,000人	280,000人

今後の取り組み

「おいで祭り」への参加は、糺谷商店街とも友好的な関係ができている。また、平成28年、29年と参加することによって、東御市(田沢おらほ村)の認知度が上がり、特産品や観光のPRにもつながられているので、今後も継続的に参加していく。

空き家活用ワークショップでは、地域に点在する空き家の状況を把握していき、他地域の空き家活用の優良事例を参考に今後の空き家活用の有効的な場としていく。

里山(児玉山)の遊歩道は今後、観光客や地元住民が気軽に散策等できるよう整備を行い、草刈り等の管理については、地域住民と協力しながらやっていけるような体制を整える。

【遊歩道の整備】

【目標・ねらい】

- ①地域の魅力を発掘・発信と地域に呼び込むための活動の活発化。
- ②観光客や移住者の増加。
- ③地域に点在する空き家の活用検討

※自己評価【B】

【理由】

「おいで祭り」は2年目という事もあり、大田区において認知度が上がり、田沢地域の魅力の発信につながった。また、空き家活用ワークショップや遊歩道の整備等は地元住民の協力も得ることができた。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。
「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた
「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある